

# せいぶつたようせい がいらいしゅ 生物多様性をおびやかす「外来種」の問題

がいらいしゅ ちいき  
「外来種」とは、もともとその地域にはいなかったのに、人間の活動によって他の地域から入って

きたいきもののことを言います。特に、人間の移動や、貿易などの物流が盛んになりはじめた

めいじじだい  
明治時代以降、たくさんのいきものが持ち込まれています。外来種が持ち込まれるパターンには、大きく分けて2つあります。

## いとてきどうにゅう パターン1:「目的があって」日本に持ち込まれる(意図的導入)

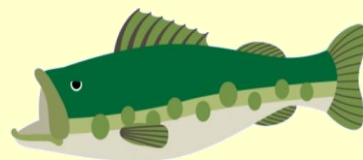
かちく  
ペットや家畜、園芸用の植物、水産やレジャー、農作業を助けるためなどの目的でいきものを持ち込んで利用する場合。

しいく  
もともとは管理された場所で飼育されていても、逃げ出してしまうったり、あやまって外に出してしまう場合もあります。



### マンゴース

1910年にハブを退治するために  
バングラディッシュから沖縄に導入



### ブラックバス(オオクチバス)

1925年に釣りのため、食用のため  
神奈川県のアシノ湖(あしのこ)に導入。  
その後、釣り人の放流によって全国に  
ひろがったといわれている。

## ひいとてきどうにゅう パターン2: 意図せずに日本に入ってきてしまう(非意図的導入)

ふちやく  
人や物が移動するときに、付着したり、荷物にまぎったりして入り込んでしまう。植物のタネや昆虫などが多い。



### セアカゴケグモ

オーストラリア原産といわれる。  
建築用の資材にまぎれて侵入



### ヒアリ

南米原産。外国からの荷物を運ぶ  
コンテナにまぎれて侵入

# せいぶつたようせい がいらいしゅ 生物多様性をおびやかす「外来種」の問題

日本にはたくさんの外来種がいらいしゅが持ち込まれていますが、そのすべてが野生化できるわけではありません。もともとはいなかった場所に持ち込まれるのですから、全く知らない環境かんきょうですみかや食べ物をみつけ、子孫を残し続けるのは大変なことです。そのような「試練しれん」をくぐりぬけて定着した結果、特に地域の自然環境や人の健康などに大きな影響を与え問題を引き起こしている外来種を「侵略的外来種しんりゃくてきがいらいしゅ」と呼びます。

## 侵略的外来種がひき起こす さまざまな問題



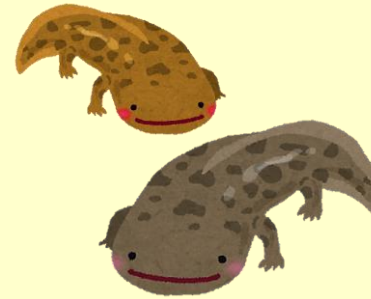
### 捕食 (ほしょく)

もともとそこに生息していた動物や植物を食べてしまう  
例：ブラックバス、マングース、アライグマなど



### 競合 (きょうごう)

食べ物や生息・生育環境をうばいあい、在来種を駆逐 (くちく) してしまう  
例：ススキ原がセイタカアワダチソウに変わってしまうなど



### 交雑 (こうざつ)

雑種が生まれてしまう (遺伝子の多様性への影響)  
例：オオサンショウウオとチュウゴクオオサンショウウオの交雑など



### 感染・病気

外来種は、その地でもともと暮らすいきもの (在来種) と「進化の歴史」を共有していないため、

外来種への対応の方法がわからないまま、在来種が一方的に悪影響あくえいきょうを受ける場合が多いのです。

# せいぶつたようせい がいらいしゅ 生物多様性をおびやかす「外来種」の問題

## 侵略的外来種による影響



世界の絶滅危惧種:41,459種  
(IUCN RED LIST 2022年10月)

日本の絶滅危惧種:3,716種  
(環境省レッドリスト2020)

「生物多様性」への  
影響



アライグマによる農業被害額は1年間で4億円(令和2年度)

「農業」や「漁業」など  
生産への影響



毒などによる直接被害はもちろん、未知のウイルスや病原菌、海外の感染症を持ち込んでしまう危険も

人間の健康への影響

がいらいしゅ  
外来種問題は **自然のめぐみ** の源泉である「生物多様性」に大きな危機をもたらす要因の一つであり、日本はもちろん世界共通の課題とされています。**SDGs**の目標の一つ「15. 陸の豊かさを守ろう」に関連する行動として「外来種の侵入の防止と影響の減少、**駆除と根絶**」がかかげられています。

## 琵琶湖の固有種が「外来種」に!?

日本国内の移動でも、もともといなかったいきものを持ち込むと「外来種」となり、もともとからその地域にいるいきものに影響を与えることがあります。このような場合を **こくないがいらいしゅ** 「国内外来種」といいます。例えば、琵琶湖の固有種であるはずの「ワタカ」や「ハス」はかつて放流用のアユに混ざって出荷された結果、茨城県の霞ヶ浦をはじめ、日本各地で生息が確認されています。

また、北海道にはもともとカブトムシはいませんでした。ペットや養殖のために持ち込まれて野生化し「国内外来種」となっています。

# せいぶつたようせい がいらいしゅ 生物多様性をおびやかす「外来種」の問題

琵琶湖やその周辺でも、侵略的外来種がたくさん・・・



オオクチバス

魚類



オオバナミズキンバイ

水草

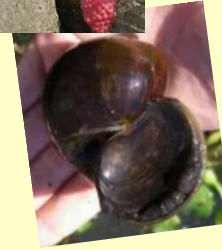


アライグマ

ほ乳類



スクミリンゴガイ



タイワンシジミ

ほかにも・・・

びわこ がらいしゅ  
琵琶湖でもたくさんの外来種問題が起きており、たくさんの人たちがその解決のために琵琶湖を守る

活動をはじめています。しかし一番大切なことは「これ以上、外来種問題を起こさないこと」です。

外来種問題は一度起きてしまうと解決が非常に難しく、対策にどんなに時間やお金をかけても、

完全に失われたいきものたちを取り戻すことは困難です。

「見た目の美しさ」や「役に立つ機能」を利用することにだけにとらわれず、生きものの移動には

しんちょう か  
慎重になること。ペットなどを飼う場合は、絶対に野外に放さず、最後まで責任をもって飼い続ける

こと。私たちひとりひとりの意識を変えていくことが、外来種問題の解決には不可欠なのです。